

1. 単元名 「わたしたちの県」～低地のくらし 海津市～

2. 本時の目標 海津市の農家の人々がトマトを作り始めたときには、水の多い土壌のために高い畝をつくり、水の中で長靴を履いて収穫するなど苦勞して生産していたことがわかる。

3. 本時の評価規準 <知識・理解> 温泉を利用してビニールハウスを造るなどの工夫をしていたが、水の多い土壌のために高い畝をつくり、水の中で長靴を履いて収穫するなど苦勞して生産していたことを理解することができる。

4. 児童の実態
学ぶ意欲 : 補助資料から疑問をもち、課題につなげようとするようになってきた。
今のトマトづくりと昔の海津でのトマトづくりをしている人の写真を比較することから課題を設定し、主体的、継続的に課題を追究していく意欲を育てたい。(関心・意欲)
学ぶ力 : 課題から予想を立て、自分の生活経験や既習内容から自分の考えをもつことができるようになってきた。
仲間と交流する中で昔の海津でトマトをつくることの大変さや工夫について自らの考えを深めさせたい(思考・判断)
学び得た力: 既習内容や追究資料から昔の海津でトマトづくりをする人たちが苦勞した理由を理解することができる。(知識・理解)(技能・表現)

5. 本時の展開 (8/11時)

課程	学習活動	研究テーマ具現のための手立て															
見通しをもつ	<p>①問題づかみ 一般的なトマト畑の写真と既習の体験からトマトの作り方を発表する S. 畑で作る。夏にとれる。芽を摘む。収穫前に水を切る。 S. 学校でもミニトマトをつくったことがあるよ。</p> <p>②資料から本時の課題を設定する(高うねづくりのトマト畑の写真) S. 畑の畝の間に水がある。土が高く盛られているなあ。 S. 水浸しの感じ。水が切れるのかなあ。 S. 堀田のようだ。 S. 水田は水がいるけど、トマト畑は水切りもあるから大丈夫かなあ。</p>	<p>&lt;子どもにとって切実感のある学習課題設定の工夫&gt; 課題につながる意識のずれを起こさせる 一般的なトマトづくりの方法と高畝づくりのトマト畑の写真とを比べ、疑問や驚きを引き出す。 子どもが自分の言葉で課題を作ることができるように補助資料や発問を精選する。(研究内容Ⅲ-②)</p>															
追究する	<p>海津でトマトづくりを始めたとき、農家の人はどんな苦勞をしたのだろう。</p> <p>③予想を交流する S. 水をよけるのが大変だ。 S. 水が根につかないようにするのに困ったと思う。 S. 水切りはどうしたんだろう。</p>	<p>&lt;学習課題に対する子どもの見方・考え方を引き出す学習活動の工夫&gt; ・考えの足場となる複数資料を絵や写真、表、文章など形式の違うものを使うことによって、誰もが意欲的に学べるようにする。 ・資料別、個別、ペアといった学習形態をとることによって、自分の考えやすいものから資料を選んで考えたり、自分の考えを確認したりする。(研究内容Ⅱ-③)</p>															
深める	<p>④資料から課題追究をする。</p> <table border="1" data-bbox="164 1468 1072 1632"> <tr> <td data-bbox="164 1468 454 1632">資料1 トマト畑で長靴を履いて作業をする人の写真</td> <td data-bbox="473 1468 763 1632">資料2 一般的な畑と海津とのトマト収穫量のグラフ</td> <td data-bbox="782 1468 1072 1632">資料3 農家の人の話</td> </tr> </table>	資料1 トマト畑で長靴を履いて作業をする人の写真	資料2 一般的な畑と海津とのトマト収穫量のグラフ	資料3 農家の人の話	<table border="1" data-bbox="1110 1413 1845 1824"> <thead> <tr> <th></th> <th>学びの状況</th> <th>よさが出るてだて</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aの児童</td> <td>資料から複数の考えがもっている</td> <td>それぞれの考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す</td> </tr> <tr> <td>Bの児童</td> <td>資料から一つの考えがもっている</td> <td>資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す</td> </tr> <tr> <td>Cの児童</td> <td>資料の選択に迷う 資料から考えがもてない</td> <td>一つ一つの資料を一緒に見ながら考える。 「トマトはいつとれる野菜だったかな」など問い返す。</td> </tr> </tbody> </table>		学びの状況	よさが出るてだて	Aの児童	資料から複数の考えがもっている	それぞれの考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す	Bの児童	資料から一つの考えがもっている	資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す	Cの児童	資料の選択に迷う 資料から考えがもてない	一つ一つの資料を一緒に見ながら考える。 「トマトはいつとれる野菜だったかな」など問い返す。
資料1 トマト畑で長靴を履いて作業をする人の写真	資料2 一般的な畑と海津とのトマト収穫量のグラフ	資料3 農家の人の話															
	学びの状況	よさが出るてだて															
Aの児童	資料から複数の考えがもっている	それぞれの考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す															
Bの児童	資料から一つの考えがもっている	資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す															
Cの児童	資料の選択に迷う 資料から考えがもてない	一つ一つの資料を一緒に見ながら考える。 「トマトはいつとれる野菜だったかな」など問い返す。															
まとめる	<p>⑤調べたことを交流する ○長靴を履いて作業する人の資料より(資料1) S. 水の中に入っての作業なので動きにくそう。 S. トマトの根っこに水がつかないようにするために土を高く盛らなければいけないので大変そうだ。 S. しめっていてハウスの中なので暑そう。 ○収穫量のグラフの資料より(資料2) S. 高畝作りのため、水の道をつくらなくてはいけないから、畑の面積が少なくなるんだ。 S. どんなにがんばってもとれる量は少ないなあ。 ○農家の人の話の資料より(資料3) S. 掘ったら水が出てくる畑でトマトが作れるように土を整えるまでには、時間も手間もかかるんだなあ。 S. 水が多くトマトが病気になるってだめになってしまうときもあるなんて世話も大変そう。 ◎苦勞ばかりのトマトづくりかな。 S. 温泉の水を引いて温度を高くできるといういい面もあるんだなあ。 S. トマトはよくみんな食べるので、つくれば売れるんじゃないかな。</p>	<p>&lt;新たな見方・考え方に気づく学習活動の工夫&gt; ・考えを交流し、深めるための時間の保障をする。 ・一斉での学び合いの場を設定し、自分の考えを意見交流の場で広げ、練り合い、さらに深めていく。(研究内容Ⅲ-③)</p> <p>試行錯誤させる教師の問いかけ 大変な苦勞のトマトづくりということだけでなく、トマトをつくるプラスの理由も考えるために「トマトづくりには苦勞しかなかったのだろうか」ということを問い返す。 ※子どもから出た場合 気づいたことを評価し、「苦勞」と「工夫」を具体的に価値づける。</p>															
	<p>⑥本時のまとめと自己評価チェック</p> <p>温泉を利用するなど工夫してつくっていたけど、現在のような施設がなく、長靴をはいて作業を進めなくてはいけなかったし、洪水が起きると畑が台無しになってしまったので、とても苦勞していたと思います。</p>	<p>&lt;子どもの学びの状況に応じた指導・援助の工夫&gt; ・多様な意見を引き出すために、教師が意図的に指名をする。(研究内容Ⅳ-①) &lt;追究したよさが実感できるまとめの工夫&gt; ・資料から深めた意見をキーワードで板書し、それを使ってまとめと感想を書くことによって認め、自信をもたせる。 ・課題に対してどのような取り組みができたか、自己評価チェックを行う。(研究内容Ⅳ-②)</p>															

